北九州プロバスクラブ月報

つ な が り

会員数 １９人

No. 228
令和７年６月号
2025. 6. 17

５月卓話　「北九州市のインバウンド政策　～九州で一番訪れたいまちに～」

北九州市都市ブランド創造局インバウンド課課長
小島　邦弘　氏

今年の 4 月に着任したばかりのインバウンド課の課長が颯爽とラフなスタイルで登場です。先ずは九州全体の外国人入国者から。コロナ禍を経て令和 6 年は493万人、福岡空港には同年で342万人到着、コロナ前の 1，4 倍という。そのなかで北九州市を訪れた外国人旅行者は令和 5 年が27万人ですが、7 年には 70 万人(平成 30 年と同等)を目指しているそうです。そのほとんどが福岡空港経由で入国し日本の各地へ。地域別では韓国 40%、台湾 23%、中国・香港が 9，6%だと。そして、1 週間以上滞在する人が多く、観光、温泉と魅力的な所が多い九州は、長崎、熊本等の観光地と連携して、ツアーを組んでもらえるように腐心しているそうです。北九州市内での宿泊を目指していますが、令和 6 年 1 月～10 月では 12 万5千人で、令和 5 年より 1，6 倍くらい増えて、観光客が 8 割を占めているそうです。観光では小倉城が 1 番人気、特に天守閣が評判でお堀に小倉城庭園、魚町銀天街、旦過市場とも相まって、令和 6 年には 6 万人の入館者があり、コロナ前の約 1,8 倍に増えたそうです。

市としてはインバウンドで稼げる町の、誘致アクションプランとして数値目標掲げ、「知って・楽しんで・定着してもらう」ことで、一番訪れたい九州の町になるため、様々な施策を展開。北九州市の魅力を発信するため、PR 方法などの検討や見直し、各国のインフルエンサーを活用しての情報発信。また、海外の旅行博への出展や参加も積極的に行うとともに、国際スポーツ大会の誘致、市内において小倉城竹あかり等の魅力的イベントの開催など。アミュプラザに免税一括カウンターも開設し、海外への航空便の増便、空港アクセスの改善等 etc・・・

現在、市のターゲットは韓国、中国、台湾が中心ですが、「河内藤園」等は TV・映画で親しまれており、タイ・シンガポール・香港などにも間口を広げ米国、オーストラリアへも開拓の輪を拡げる予定だそうです。その上、宿泊者数増加のため夜景や早朝の町の魅力を作り出すことも。そして誘致だけでなく旅先のマナーや人々とのふれあいを深めても行きたいと話されました。

高齢化、人口減少、経済の衰退など、あまり良いニュースがないと思っていた我が町に、新たな希望の芽が育っていることを感じることができて、嬉しく思いました。(内藤)

５月例会報告

始まりは会員動向で、安高会員が病気療養のため 10 月まで休会されます。そして、橋本会員も怪我をして入院中とのこと、会員各人の自己管理が大切だなあと感じました。この月に誕生を迎える唯一の橋本会員が休みで、残念ながらハッピーバースデーが歌えませんでした。続いて「今日の卓話を大切に聞いてください」と植田会長の挨拶の後、「北九州市のインバウンド政策」を、新設された課の課長がエネルギッシュに話されて、市の将来に明るい希望が感じられました。委員会、同好会活動に続き、ショートスピーチは褒章授賞式のため皇居を訪れた神田会員の、なんとトイレの話が飛び出し、軽妙洒脱な話ぶりは身につまされるやら同情するやらで、神田会員の面目躍如というところでした。

続いて、来期のクラブ会費納入のお願いと来月の予告をして、今月もクラブの歌をアカペラで歌って散会となりました。(内藤)

委 員 会 報 告

企画委員会

6月 3 日　6名出席

17 時 30 分より湖月堂で開き、7月例会は、管理栄養士でもある山下静江会員の「健やかな高齢期を目指して～低体重に注意～」の卓話を確認しました。と同時に、卓話でパワーポイントの使用が可能かどうか、実地点検することになりました。具体的には、古賀会員がパワーポイントと備品を持参、山下会員がUSBを持参して、操作は古賀会員が行うことに。その結果で今後の対応を検討することにしました。

なお、9月例会卓話講師の選考も行い、第1候補、第2候補について、本人に打診することになりました。(松本)

広報委員会

6月9日　3人出席

北部九州がやっと梅雨入りした翌日の 12 時 30 分から開催で、足元が心配でしたが、それ程の雨量でなくて安堵しました。お昼は海老フライ、元気になって、「つながり 7 月号」の編集会議がスタートです。卓話や委員会・同好会の原稿や写真担当を確認しましたが、同好会活動も少なく、記事が足りそうにありません。どなたかトピックス記事がありましたら、お知らせくださいませんか……。終わりに6月号の校正にかかり、タイトル文字の良し悪し、意味のわかりにくい文章の変更、写真配置の検討等……、いつの間にか閉会の時間となってしまいました。(内藤)

交流委員会

6月 10 日開催予定でしたが、雨のため 14 日 12 時に延期。次号に掲載します。

バラフェスタを訪ねて

晴れでもなく、雨でもなく、暑くもなく、散策には最適な天気の 5 月 29 日、交流委員会企画による若松グリーンパークで開催の「バラフェスタ」に出掛けました。総勢 20 名。プロバス会員は 8 名でしたが、ご夫婦での参加があったり、外からの参加かと思っていたら意外な繋がりのあった方々だったりと、驚きの顔ぶれでした。

晴れた太陽のもと、種類が多いとの評判のバラが満開！を期待していましたが、先日の雨風で枯れたのも多く、ちょっと残念でした。でも、バラを肴の昼食はお酒も頂き大盛り上がりとなりました。なんと「道の駅」にも寄っていただけたので、2 倍楽しかった 1 日でした。(吉田秀子)

シャンソンっていいな

シャンソン歌手TAKAKOの門下生による「ラ・ニュイ　シャンソンコンサート」が今年も5月18日、14 時から北九州芸術劇場で開かれ聴きに行った。

古賀会員も門下生の 1 人で、2曲歌った。1曲目は「いつかの二人」。心中した2人への思いを、ピアノ伴奏をバックに、やさしく語りかけた。2 曲目は「孤独」。歌詞に「いつの日にか召される時でも、まだ愛していると言って死にたい」等の詩のフレーズがあり、心の中に静かに浸み込んできた。

舞台に立った門下生は 11 人。それぞれに人生の機微を歌っていたが、それらに耳を傾けていると、わが人生の様々な出来事が、なつかしさといとおしさを伴ってよみがえってくる。シャンソンっていいな。(松本)

同 好 会 活 動 報 告

茶道クラブ「菜の花」

5 月 16 日 11 時 30 分から、会員 9 名、古賀会員宅に集まり、御弁当と古賀さん手作りのポタージュスープ等を頂いてお茶室に入りました。

5 月から炉が風炉に変わり、橋本さんのお点前で稽古が始まりました。今回は掛け軸の作法を、お軸を箱から取り出し、床の間に掛け、その終い方まで教えてもらいました。

今月は端午の節句に因んだ飾り物が用意されていました。毎回準備が大変だろうなと感謝です。稽古が終わるとコーヒーを飲みながら楽しくおしゃべりして散会しました。(柴村)

食 美 会

6月6日 12 時から 10 名が参加して小倉北区の台湾料理店[麗白]で開催しました。以前より少し値上がりもしていましたが、柔らかい豚のヒレ肉の甘煮や海老のマヨネーズあえ、どれも美味しく家庭では作れない味に満足しました。貝柱のお粥は絶品でした。最後の杏仁豆腐が甘すぎず、すっきりしました。

何度行っても満足度の高い[麗白]でした。(吉田秀子)

「皇居とトイレ」

No.85　神田　澄男

実に失敬なタイトルをつけてしまった、と既に反省している。神田会員が 75 歳当時、授章式参列のため皇居に赴いた時の体験談であるが、何故トイレの話に至ったかは触れないことにしても、実に興味深かった。

叙勲の栄に浴する方々はバスで皇居へ向かうそうで、そりゃそうかも…。しかし皇居には受章者とその妻しか入れない。配偶者以外はバスの中で待機だそうだが、受章者は高齢者が多い。今後ももっとおひとり様は増えるだろうに～。

そしてあの有名な二重橋を渡ったところに公衆トイレがあるなんて! 身を綺麗にしてから「さあお入りください」とでも言うようで、複雑な気持ちになる。

終了後、集合写真を撮る前にトイレを借用。緊張から解き放たれる瞬間を経験できるスペースとしてトイレは最高です。しかも隣がちょっと遠い個室とは…なんと素晴らしい。プライベート空間に重きをおいているからでしょう。勿論ウォシュレット付きですよね。

クラブでは女性陣にトイレに連れて行って頂いたりお世話になっています…とのお礼でしたが、隣と近くて小ぶりなトイレだけれど、大丈夫! 会員は爽やかで豊かな心持の人たちばかりだから。(植田)

村上五一先生を偲んで歌う

春の恒例の「2025 くにたちコンサート」へ、5月18日ウェル戸畑で 14 時 30 分から開演。第 1 部はくにたち卒業生のピアノ、ヴァイオリンの独奏があり、第 2 部の”村上五一先生を偲んで”は、高校の音楽教諭をしながら、同窓会の後輩たちを指導された村上先生への追悼プログラムでした。

中でもバリトンの独唱が抜群で、前方に座っていた私は、モーツァルトやプッチーニのアリアを歌うバリトン歌手に見つめられている? 気がして、幸せな気分になりました。終わりに植田会員が登場し、村上先生との思い出いっぱいの〔アヴェ・ヴェルム・コルプス〕他 3 曲を、美しいコーラスで披露、会場から盛大な拍手を受けて終演。心地良い風に吹かれて帰路に着きました。(内藤)

変人!!　理想の声楽家　　植田佐世子

秀でた音楽家は変人が多い。専攻に因って違いがあるが、例えばピアニストは幼少期より楽譜と鍵盤の徹底した専門教育を施されたせいか、かなりの個人主義である。演奏も全身で表現するのではなく、鍵盤との格闘のあげくに自己反省の世界にこもる。しかも指の長さよりも、腱鞘炎を患う方が軽蔑される。そりゃあ練習の仕方が下手だからと…因みに私は左手が腱鞘炎である。

トランペット奏者は目立ちたがり屋。友人も授業をサボっているのに玄関の庇の上で、ファンファーレコンクールの曲や夜のバイトの曲を練習していた。そして門歯の悪い人が多い。唇に強く押し当てて練習するからで、大学入学前から痛ましい。

ヴァイオリン奏者は自己陶酔型の人が多い。フレットのない楽器なので練習は耳元でキーキーと不安定な音を探す。隣の部屋はたまったものではない。しかも、ヴァイオリンも弓も子どもから大人になるまで、何度も買い替える必要があるため、経済力がなければ夢は半減する。誰もが持ちたいストラディヴァリウスも現在は所有者から認められた人が貸与してもらえるのが現実。

しかし、なんといっても可哀相な変人が声楽家である。ひたすらよく響き・豊かな声を出すために99%「努力」をしても、1%の「遺伝的要素」が立ちふさがる。声を集約し前に出すための鼻は高く。口腔内は共鳴を保つため広く。顎の未発達による歯並びの悪さや欠歯・金属の使用は共鳴を乱れさせるので、健康で自前の歯がベター。口は大きい方が響きを助ける。頭と胸部を支える首は太く。息を保持し横隔膜を支えるには広い胸郭…美形にはほど遠い。そのモデルのような歌手にサザーランド(ソプラノ)やパバロッティ(テノール)がいる。彼らは呼吸をするようによい声が出る身体的条件を受け継いで生まれたのです。さらにソプラノやテノールは小柄か中背、アルトやバスは背が高い方が良いのは声帯の長さと身長が正比例するから。声の高さは両親の声域により決定される。メンデルの法則の様なものである。

「遺伝的要素」を諦めたとしても、人より秀でるためにはコンクール優勝か留学かの世界である。一昔前の話だがローマの公園は1年中ミンミン蝉が鳴いていたという。日本人の低めの鼻は「M」の共鳴に向いていない。留学生たちの「んみ～　ンマ～　んみ～」…蝉の声で溢れていたらしい。今も「M」下手は変わっていない。世界的に通用する声楽家は「三代目にやっと生まれる」と言われる所以かも知れない。歌い手として生き残るために理想の姿を求めすぎたソプラノはソプラノ○○と言われ、高い声を出す努力を重ねすぎたテノールはテノール○○と称されることがある。歌い手として生き残るには、人がどう評価しようと拘りがいる。そして真面目に拘った結果、変人声楽家が誕生するのである。本が一冊書けるほどの。

ありがとうBOXメッセージ5月分（入会順、敬称略）

★暑くなりました(遠藤)　★何時もお世話になります(神田)　★今日はおかげ様で上天気、体調よく出席できました(古賀)　★今日も元気に参加できました(吉田秀子)　★(松本)　★(植田)　★(内藤)　★月日の立つのが早くなりました(吉田信雄)　★毎日忙しくしていますが楽しく過ごしています(柴村)　★素晴らしい新緑に感謝！(藤原)　★暑い日です。体調に気をつけたいと思います(新城)　★卓話興味深く聞きました。有難うございました(山下静江)

収支報告	令和7年4月末残高	60,489円
	令和7年5月分	6,000円
	令和7年5月末残高	66,489円